

平成22年度 自己評価計画（中間報告：太線の枠内のみ）

石川県立野々市明倫高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 授業改善に努め、少人数・習熟度別授業の研究や実践を通して、指導力を高め生徒の学力向上を図る。	① 少人数・習熟度別授業を効果的に実施し充実させる。	教務課 各教科	学力向上実践モデル事業の2年目にあたり、少人数・習熟度別授業をより効果的に実践するための、授業内容や授業手法の標準化の研究を押し進めなければならない。	【努力指標】 少人数・習熟度別授業に対する「明倫スタンダード」「明倫メソッド」の構築に向け、方向性を形作る。	授業研究会等を通して「明倫スタンダード」「明倫メソッド」が構築できたと考える教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合、改善策を検討	7月実施の調査では63%であった。
				【成果指標】 少人数・習熟度別授業により、生徒の学習意欲が高まり、成績の上昇がみられる。	成績の上昇が A はっきりとみられた B 概ねみられた C あまりみられなかった D みられなかった	CまたはDの場合、改善策を検討	11月、1月に実施
	② 生徒による授業評価を活用し、授業改善に役立てる。	教務課 各教科	各教員・教科の問題点を客観的に把握でき、授業改善のために有効である。	【満足度指標】(生徒) わかりやすい授業により学習意欲が高まり、積極的に授業に参加することができる。	生徒の授業評価で、教員に対する満足度が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教科別の評価でDの場合は、その教科で改善策	7月実施の調査では86%であった。
				【満足度指標】(生徒) STテストを効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める。	STテストが基礎学力の定着に効果があると考える生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合、改善策を検討	7月実施の調査では62%であった。
	③ 基本的な生活習慣を確立させ、基礎基本の定着を図ることにより、学習意欲を高め、学習習慣を定着させる。	教務課 各学年 各教科	基礎学力を定着させ学習意欲を高める取り組みが必要である。STテストの効果的な活用や週末課題の工夫などにより、さらに家庭学習時間の増加を図りたい。	【成果指標】 十分な学習時間が確保され、継続的な学習が定着している。	各クラスの平均家庭学習時間が、1・2年生で2時間以上、3年生で3時間以上確保している生徒が、 A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合、改善策を検討	6月は26%、7月はテスト前で83%という結果が出た。
				【成果指標】 「総合的な学習の時間」などを基礎知識の習得・社会的関心の育成の場として活用し、小論文の学力向上のための学びの機会を増やす必要がある。	小論文テストの判定が標準以上の生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月実施の調査では、1年が67%、2年が76%であった。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 生徒一人ひとりの個性にあった進路設計をうながし、生徒の進路実現率を高める。	⑤ 定期的な進路情報の提供に努め、進路ガイドを充実させる。	進路指導課 各学年	毎月1回以上「進路だより」を発行するなど、生徒の進路設計の意欲を引き出す工夫を続けてきた。生徒向け進路ガイドンス以外に、教職員の研修会の充実も必要である。	【満足度指標】(生徒) 個性に合った進路を真剣に考え、具体的な進路設計に取り組むことができる。	自分の進路について A 真剣に考え、進路設計に取り組むことができた B 概ね真剣に考えることができ、進路設計に取り組もうとした C あまり真剣に考えることができなかった D 真剣に考えることができなかった	A 4点、B 3点、 C 2点、D 1点 とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	各取組後実施
				【満足度指標】(保護者) 進路情報の提供やきめ細かな個別指導など、適切な進路指導が行われている。	生徒に対する進路指導が A 適切である B 概ね適切である C あまり適切でない D 適切でない	A 4点、B 3点、 C 2点、D 1点 とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	12月下旬実施
	⑥ 生徒の進路目標の実現率を高める。	進路指導課 各学年 各教科	進路希望調査で書いた第1志望の実現率が低い。実現するための意欲を喚起し学力をつける必要がある。	【成果指標】 3年第2回進路希望調査における第1志望の実現率を高める。	生徒の第1志望の実現率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	3月下旬実施
				⑦ 国公立大学への志望者数を増やし、合格者数を増やす。	各学年 進路指導課 各教科	補習内容が充実するような工夫を行い、生徒により高い目標を持たせる。	【努力指標】 個別学力試験に向けた生徒の記述問題への対応力を高めるために効果的な補習を実施する
	進路指導課 各教科 各学年	前年度に比べて富山大学の合格者数が伸びたが、金沢大学と石川県立大学は減少した。個別学力試験に対応できる学力の養成が必要である。	【成果指標】 国公立大学の合格者を増加させる。			国公立大学合格者数が A 60人以上 B 50人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討
	⑧ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 生徒指導課 各学年	人間関係作りの問題を抱える生徒に対応するため、生徒・保護者との信頼関係の構築と教員間の連携が重要になっている。	【努力指標】 Q-Uで「要支援生徒」を把握し、面談を通して、学校生活満足群の割合を高める。	Q-Uで満足群の割合が A 55%以上 B 45%以上 C 35%以上 D 35%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	5月実施の調査では49%であった。
			顕著ないじめへと発展する前の対応はできたが、根絶に至っていない。	【努力指標】 担任との情報交換やアンケートの実施により、いじめの有無を常に把握し、適切な対応をする。	いじめに対して A 素早く察知し、未然に防ぐことができた B 素早く対処し、解決に至った C 素早い対処が出来ず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月末現在、適切に対応が出来ている。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の自主的な活動を支援し、自律心を高めるとともに、たくましい人間の育成に努める。	⑨ 体育授業時に運動量を確保し、特に持久力の向上を図る	保健体育科	生活の中で運動時間が減少と体力の低下傾向がある。	【努力指標】 体育授業で毎時間体づくり運動を実施する。	新体力テスト（シャトルラン）で、1回目よりも向上した生徒が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	4～5月、12月実施
	⑩ 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。	生徒会課 各学年	部内の人間関係に悩んだり、勉強との兼ね合いが難しかったりして、後半になると部活動加入率が漸減する傾向がある。	【満足度指標】（生徒） 部活動に積極的に参加し、その活動が充実している。	部活動が A 非常に充実している B 充実している C あまり充実していない D 全く充実していない	A 4点、B 3点、C 2点、D 1点とし、平均が2.5未満の場合は	7月上旬に実施した意識調査では、75%が満足している。（加入率 87%）
	⑪ ボランティア活動への自発的な参加を促す。	生徒会課 各学年	ボランティア部と生徒会執行部が企画し、積極的に参加している生徒も多いが、全生徒への啓発や参加を促す必要がある。	【努力目標】 ボランティアにつながる活動に積極的に参加させる。	ボランティアに関連のある活動に生徒の参加した割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	2月下旬実施
	⑫ 全員一斉清掃の指導を徹底し、生徒の美化意識を高めて校舎内を美しく保つ。	保健環境課 各学年	1人の教員が複数箇所を同時に監督するため、徹底が難しい面がある。今後も教員数の減少が予想されるので対策を講じる必要がある。	【努力指標】 監督責任箇所の指導及び点検が確実に行われている。	A 常に指導・点検がなされ、清掃場所は美しい B 指導・点検はしているが、やや不十分である C 時々、指導・点検をしているが、清掃されない場所がある D 指導・点検を十分しておらず、きれいではない	A 4点、B 3点、C 2点、D 1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	指導・点検状況調査 12月上旬実施
	⑬ 危機管理意識を高め、事故の防止と発生時の対応に万全を期す。	総務課 生徒指導課 保健環境課	教員の意識は喚起されつつあり、緊急時の対応訓練も定着してきた。さらなる充実を目指す。	【成果指標】 不慮の事故防止のための研修・実地訓練により、教職員の危機管理意識が高まった。	危機管理がさらに高まったと考える教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	12月上旬実施
	⑭ 生徒の読書を促進する。	図書課	読書の促進のため図書委員会による企画・掲示の工夫とともに、一斉読書など、全校的な取り組みが必要である。	【成果指標】 生徒が積極的に図書を利用している。	全学年の生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 3.5冊以上 B 3.0冊以上 C 2.5冊以上 D 2.5冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月末で生徒一人あたりの年平均貸出冊数が、1.62冊（昨年同期 0.74冊）
	⑮ 保護者にPTA主催行事や学校行事に積極的に参加してもらう。	総務課 生徒会課 各学年	年々参加率は高まっているが、保護者の学校に対する理解と信頼をより深めてもらうために、より多くの保護者の参加が必要である。	【努力指標】 PTAと生徒がともに活動する機会を設定する。	「朝の挨拶運動」における保護者の参加率が A 65%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月末現在で、37.9%（昨年同期 34.3%） B～C？

